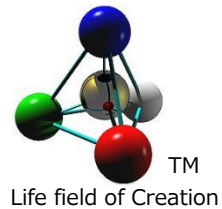


狭小空間HUT3のコンセプト・デザイン



コンセプト・デザイン作品 2007年10月12日 山口泰幸 @ 概念デザイン研究所®
url=<http://www.gainendesign.com/> taizan@gainendesign.com 電話・ファックス=0466-43-4713



趣旨

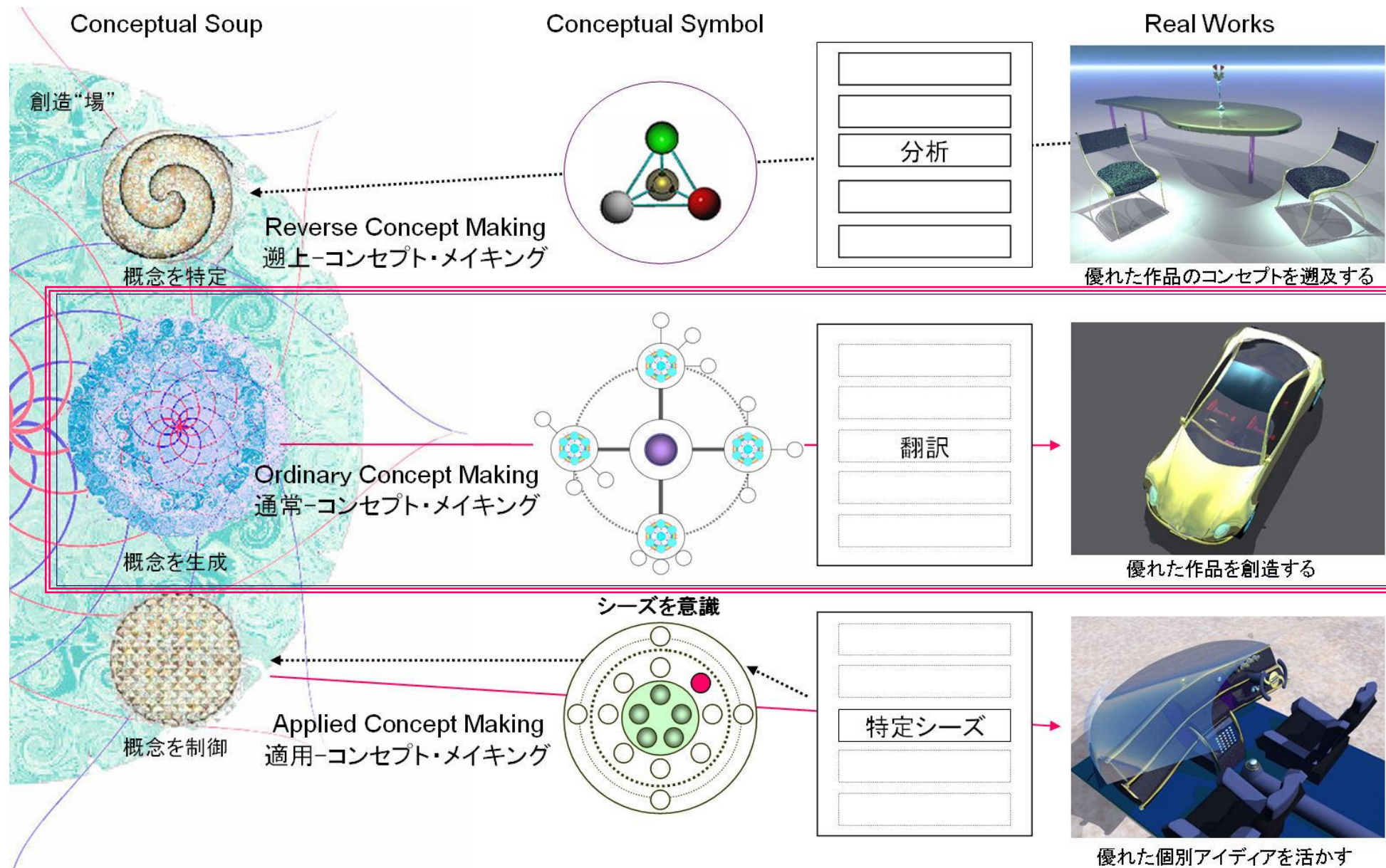
環具の授業の一環として、HUT 2の流れをくんだ次世代狭小空間；（HUT 3）のコンセプト・メイキング&デザインを行う。基本的にHUT 3のコンセプト・メイキングはOCMの流れで行うものとする。その進め方を以下に示す。後述するように、HUT 3はカナダのトロントを想定する。

コンテンツ

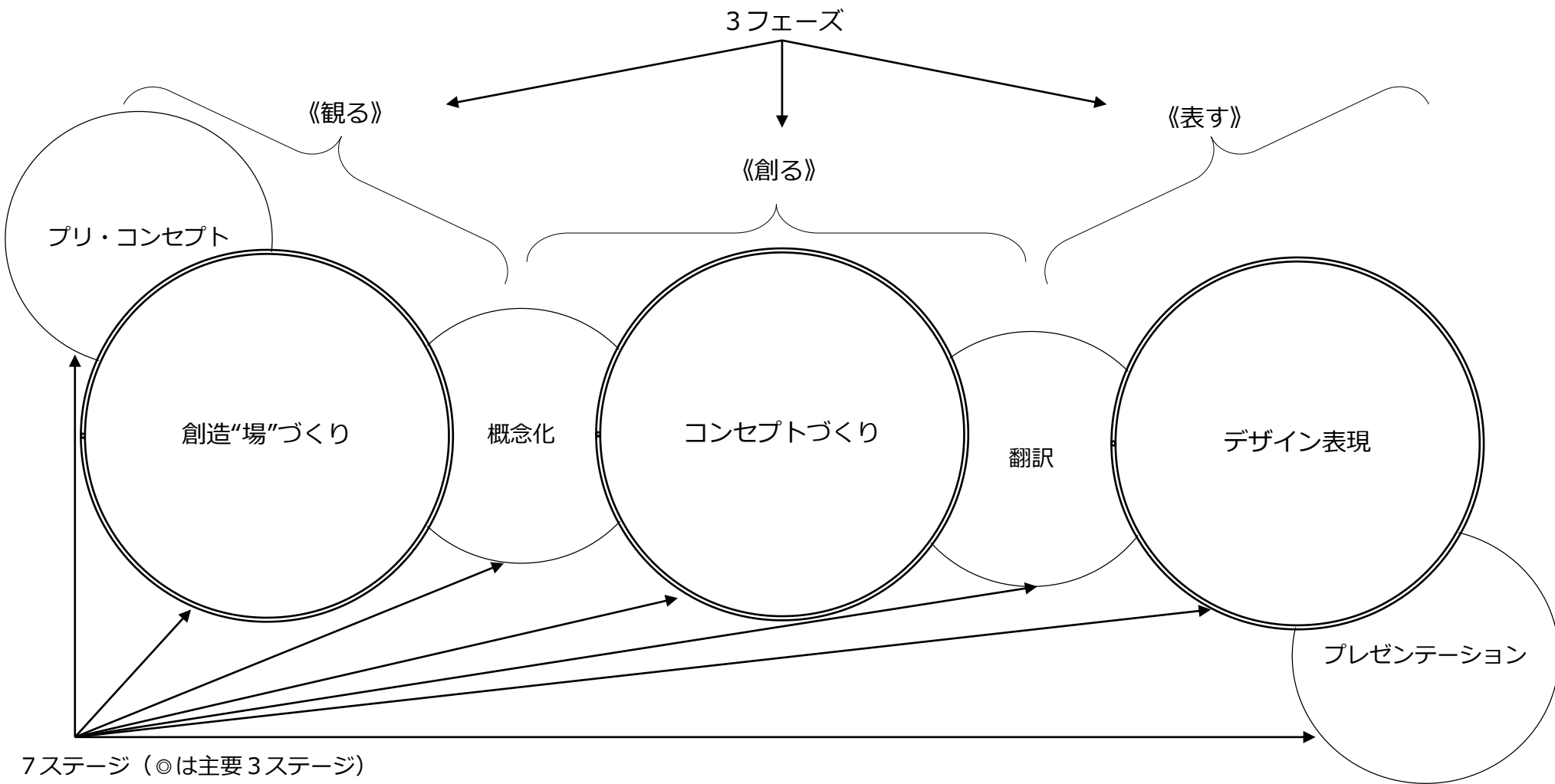
- 1 OCMの基本的な流れ
 - 2 OCMの3大ステージと7プロセス
 - 3 プロセスコンセプト・メイキングにおける7つのC
 - 4 環具；カナダにおける次世代狭小空間の与件
 - 5 場所に関する基本情報
- * HUT3 のコンセプト・メイキングで提出するもの
- ①コア・コンセプトとキーワード群
 - ②展開の柱 3~5本
 - ③ラフスケッチ 複数枚
 - ④シーンに関するイメージシナリオ
 - ⑤アイディアのヒント



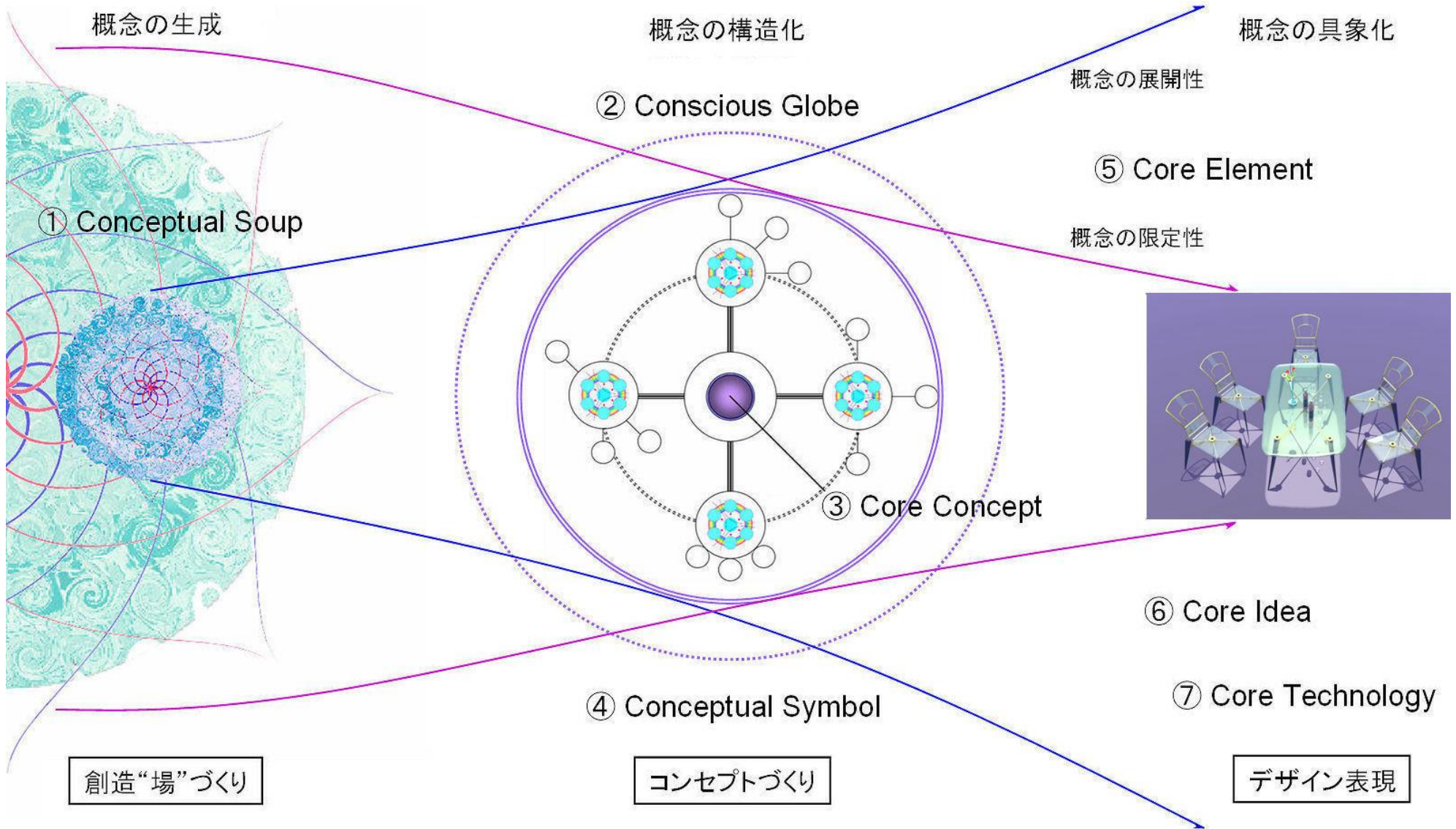
2008環具 ; HUT3 (仮題) のコンセプト・メイキングはOCMで行う。



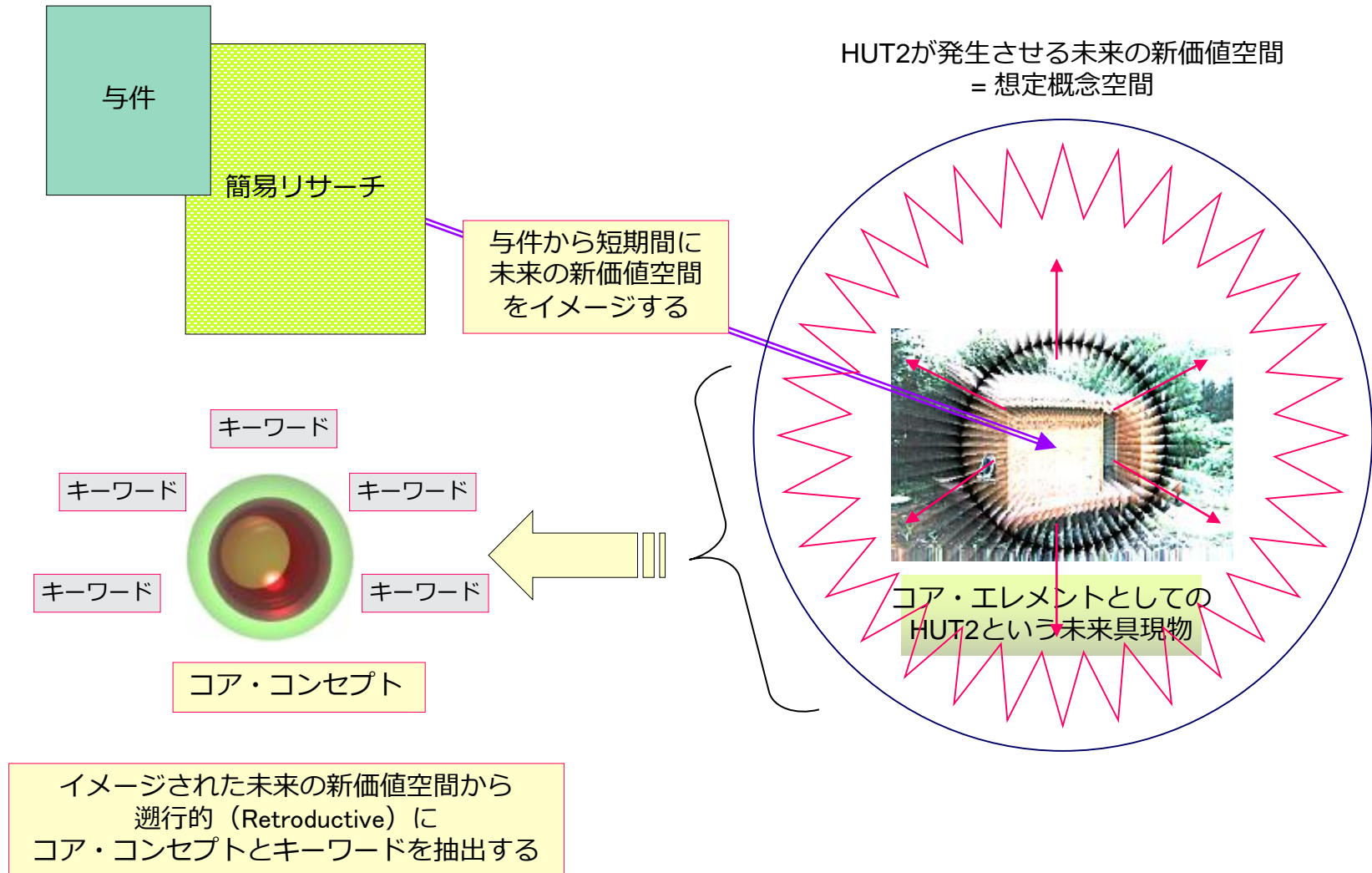
2008環具 ; HUT3 (仮題) のコンセプト・メイキングで踏まえるべきプロセス。



2008環具 ; HUT3 (仮題) のコンセプト・メイキングで注意すべきもの。



通常のコンセプト・メイキング (OCM ; Ordinary Concept Making) のプロセスにおける創造“場”をさらに強化させるために、HUT2ではそれが発生させる“空間” そのものを、与件及び簡易リサーチに基づいてアブダクション (abduction ; 仮説推論) 的に「イメージ化」し、その想定概念空間から直接コア・コンセプトとキーワードを抽出してしまうという方法をとります。
 → 『ダイレクト・イメージ法』 この場合のコア・コンセプト、キーワードは概念生成のための叩き台となります。



2008環具 ; HUT3 (仮題) の与件は以下のとおりである。

与件

- ◎ カナダ、トロント郊外
- ◎ 環境の良い広大な敷地 (湖畔)
- ◎ 夏季限定
- ◎ HUT 2002の進化版 = 環境対応型狭小空間
- ◎ ノックダウン方式 & セルフビルド
- ◎ 建築と家具の両要素 (環具*)
- ◎ インスタレーション的要素も考慮
- ◎ 基礎なし構造
- ◎ 簡便 & 廉価
- ◎ 将来的には企業とのコラボも照準に入れる
- ◎ サマーキャンプ拠点としても利用

* **環具** ; 環具すなわち「環境を生成する家具」はオリジナルHUTから用いている概念であるが (言葉としては以前から存在する)、テーマである狭小空間を考えるに当たって、「サイズやフレーム」という視座を超えた空間作りが重要になる。つまり既に構築されている建築の概念と家具の概念を超えながら、さらに新たな空間形成に挑戦するという意味で、家具などの個物が複数存在することによって生成する「ハザマあるいは関係性における空間」を探究することが今回のプロジェクトでも重要になる。

オリジナルHUTでの新たな空間発生源は“座”であり、主に座するための道具が概念上の主役であったが、HUT2ではそれも含め、家具群、個別装置群がその連環の中で発生させる新しい空間が主役となった。その意味で、「環境 = そこにおける新しい空間 --- を生成する新しい家具群」の概念的な総称としての“環具” (ゴロも良いかと思われます。) を踏襲して使用していく。

今回の2008環具では、HUT 2 をさらに進化させ、場所の設定もさらに限定し、よりテーマ性と現実性のあるコンセプト・メイキングとしてゆく。



コア・コンセプトをリサーチ、サーベイを通じて探し出す手順

プリ・コンセプトとサーベイ
* どこに
* 何を見つけに行くのか

③ 関連場所への探訪旅行



創造“場”形成法

④ 外部人材への飛び込み取材

⑤ 知識の外在化と完全共有化

- * オンディマンダの情報検索
- * セミ・オープンなチームWeb-Forum



① What's new!? Meeting の推進

- * 話題提供はメンバー持ち回り制



② Trigger Product、Trigger Food の自由評価

⑦ 外部人材の取り込み

⑥ イメージ・シャワーの活用

* コンセプト・メイキングでは
問題点抽出以上に発見と着眼点が大切！
* “場”の中に隠れている貴重な「隠し絵探し」
の旅に出る。

主要5アプローチ

- ・ 鳥瞰視座
- ・ 異質訓化
- ・ 感動深化
- ・ 哲学探究
- ・ 仮説検証

コア・コンセプトと
独自切り口を発見

より高い次元から
ターゲットの
ポジションや全体像を
見渡す方法

異質、異次元の中に
本当のヒントが
あると想定して
探す方法

結果的に最も感動を
したものを
徹底的に
掘り下げる方法

課題や問題意識を
否定・疑問を
繰り返すことで
本質を探し出す方法

自分の閃きや仮説を
練った上で、
その実例を
見つけに行く方法

アウトプット

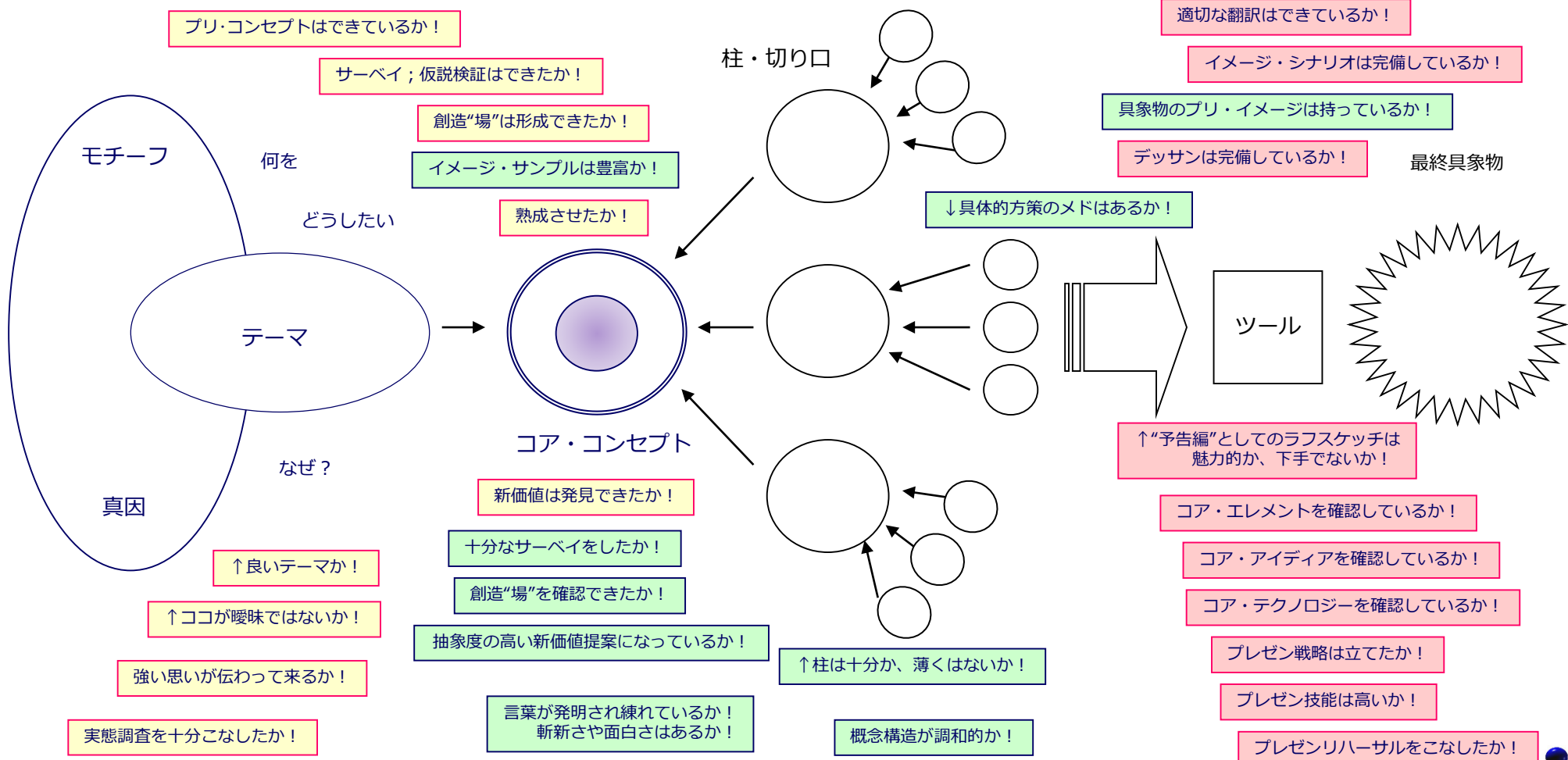
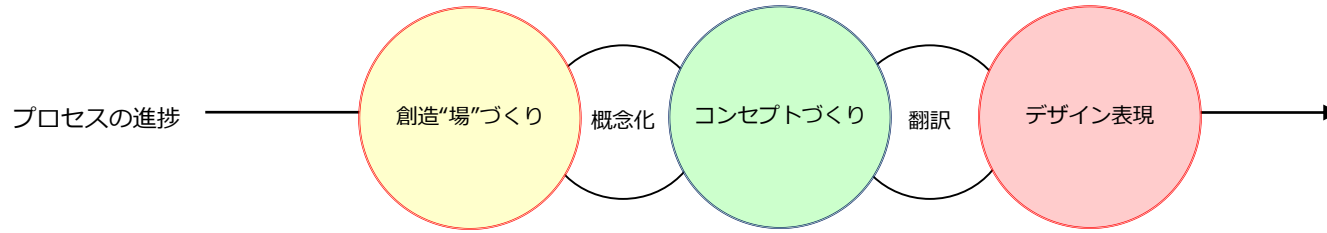
コア・コンセプト
柱・切り口
柱・切り口の分解



新しい価値を
新しい言葉で
発見すること

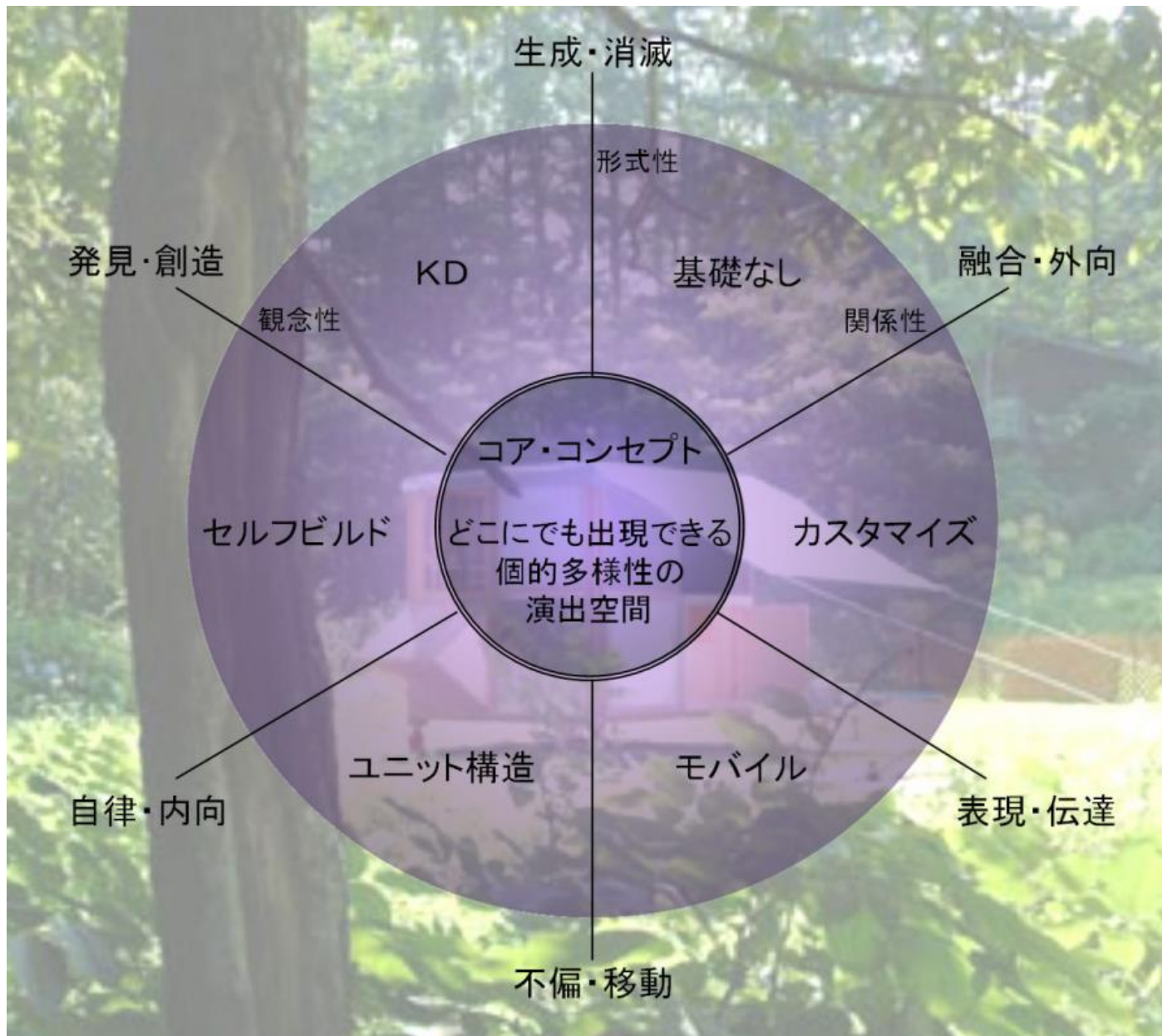
発見！
気付き！





コンセプト・パッケージ





* **環具**；環具すなわち「環境を生成する家具」はオリジナルHUTから用いている概念ですが（言葉としては以前から存在する）、テーマである狭小空間を考えるに当たって、「サイズやフレーム」という視座を超えた空間作りが重要になるといえます。つまり既に構築されている建築の概念と家具の概念を超えながら、さらに新たな空間形成に挑戦するという意味で、家具などの個物が複数存在することによって生成する「ハザマあるいは関係性における空間」を探究することが今回のプロジェクトでは重要になります。

オリジナルHUTでの新たな空間発生源は“座”であり、主に座するための道具が概念上の主役でしたが、HUT2ではそれも含め、家具群、個別装置群がその連環の中で発生させる新しい空間が主役となります。その意味で、「環境＝そこにおける新しい空間――を生成する新しい家具群」の概念的な総称としての“環具”（ゴロも良いかと思われます。）を踏襲して使用していきたいと思えます。

環具；「環境を生成する家具」は、これまでのサイズや枠組みよって物理的に拘束される閉鎖空間という概念を次の点で革新しているといえる。

- ① 家具というそれまでは空間中に付随する個物こそが、むしろ逆に空間を発生させる
- ② 家具そのものが空間ではなくて、家具の連鎖的な関係が空間を発生させる
- ③ 発生させる空間とは“環境”とよぶに相応しいフレキシブルな概念である

HUT2ではこれにさらに概念的な進化が要求される。すなわち、

- ① 家具という個物的な存在を超えて、“個的存在”自体（抽象度が高い）としてみて行く
- ② 発生させる空間は“変化（へんげ）”するものであり、発生のダイナミズムが必要
- ③ 生成された空間は環境を越えて、出現形態としての審美性が需要である

このような新たな空間をHUT2では概念設定していくことが重要ではないかと考える。それに基づいて“環具”を超える空間概念のネーミング案として以下を提案いたしたい。



語呂、音感、対称性、意味性、簡索性を考慮して、美生坐と命名した。

HUT2以降の生成空間には審美性が求められる。

み も ざ
美 生 坐

其処にアル、置かれる、座る---などは個々の存在を意味している。
坐はイマスでもあり、存在の意味を問うている。

空間が生き生きと発生させるというダイナミズムを謳うことが重要である。

代替案

環生坐	かむざ
間実坐	まみざ
華生坐	かむざ
華実坐	かみざ
美成坐	みなざ
環生坐	かんざ



コア・コンセプト 『ハザマを彩る；“私とはいったい誰なのか”』
「創る悦び、遊べる愉しさ、伝える粋---がそこにアル；自分空間表現Cube」

“クレミアン”

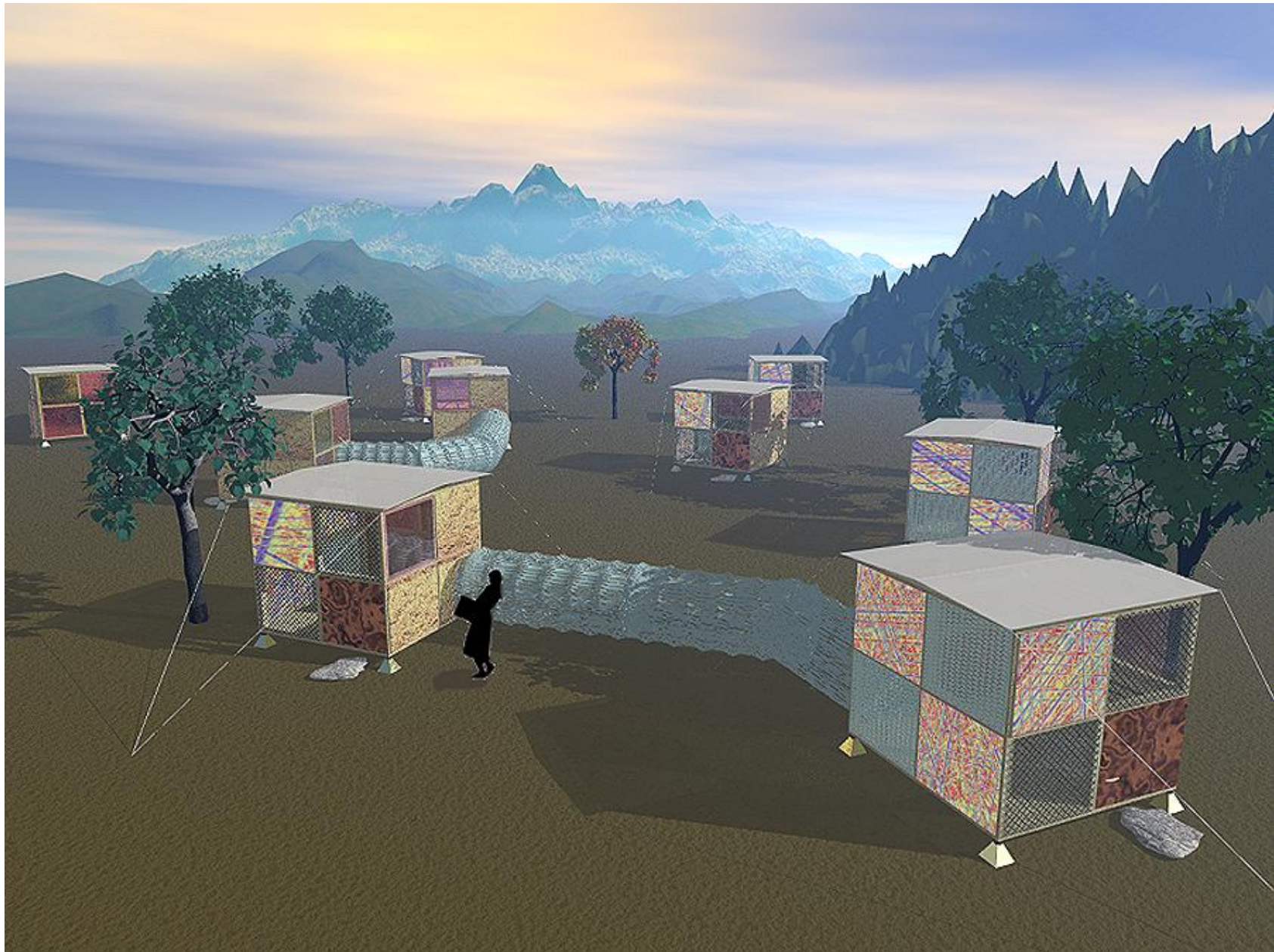
空間創出メディア

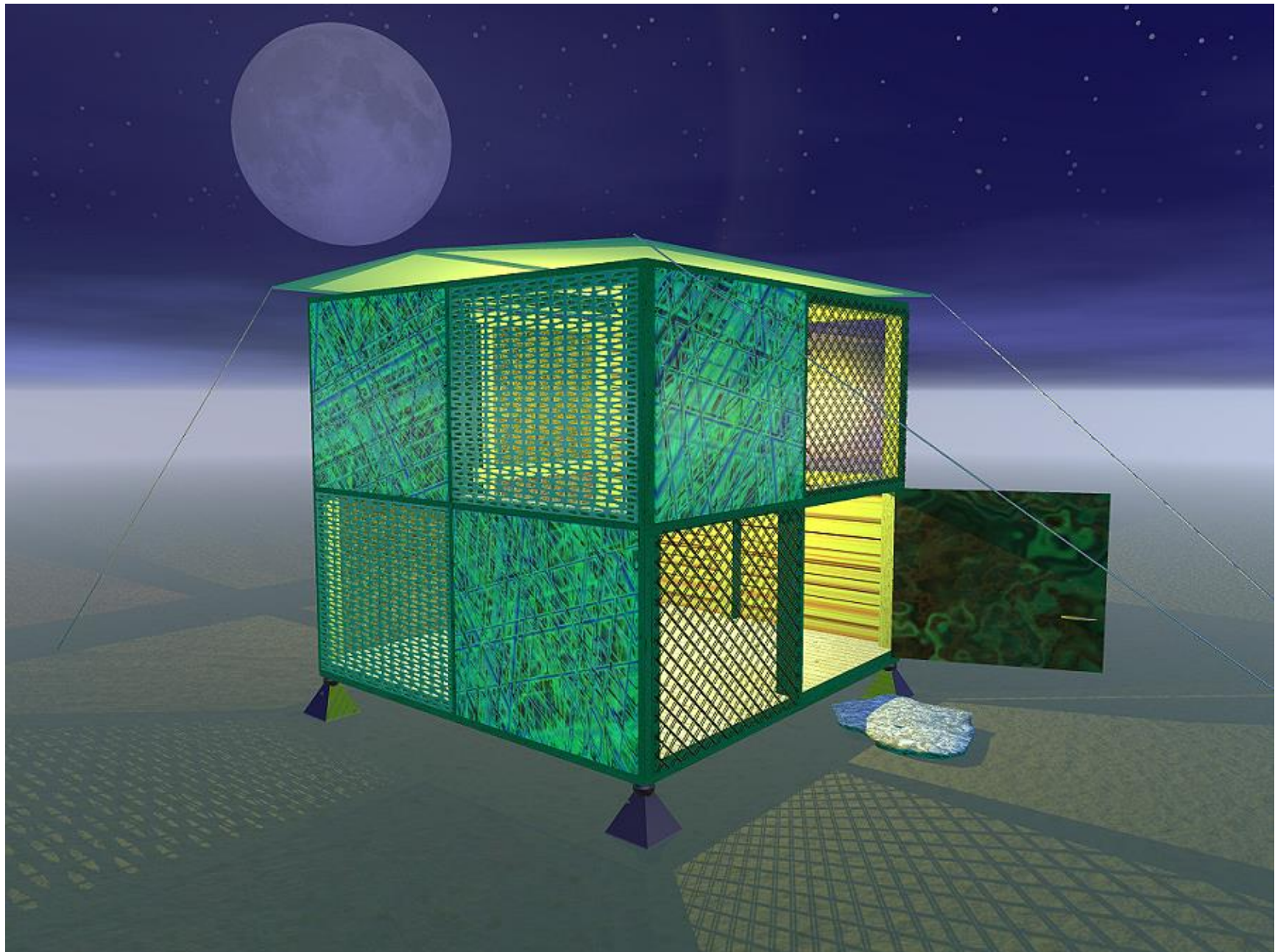


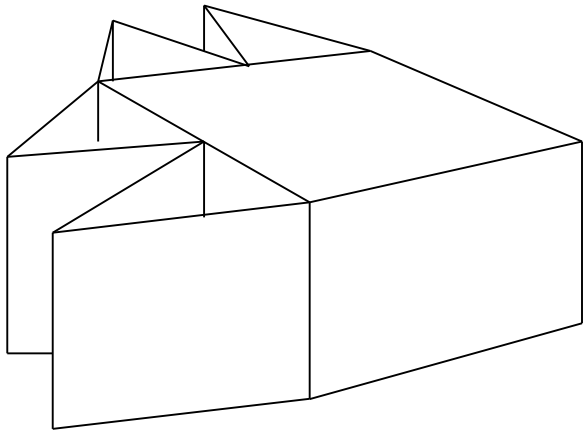
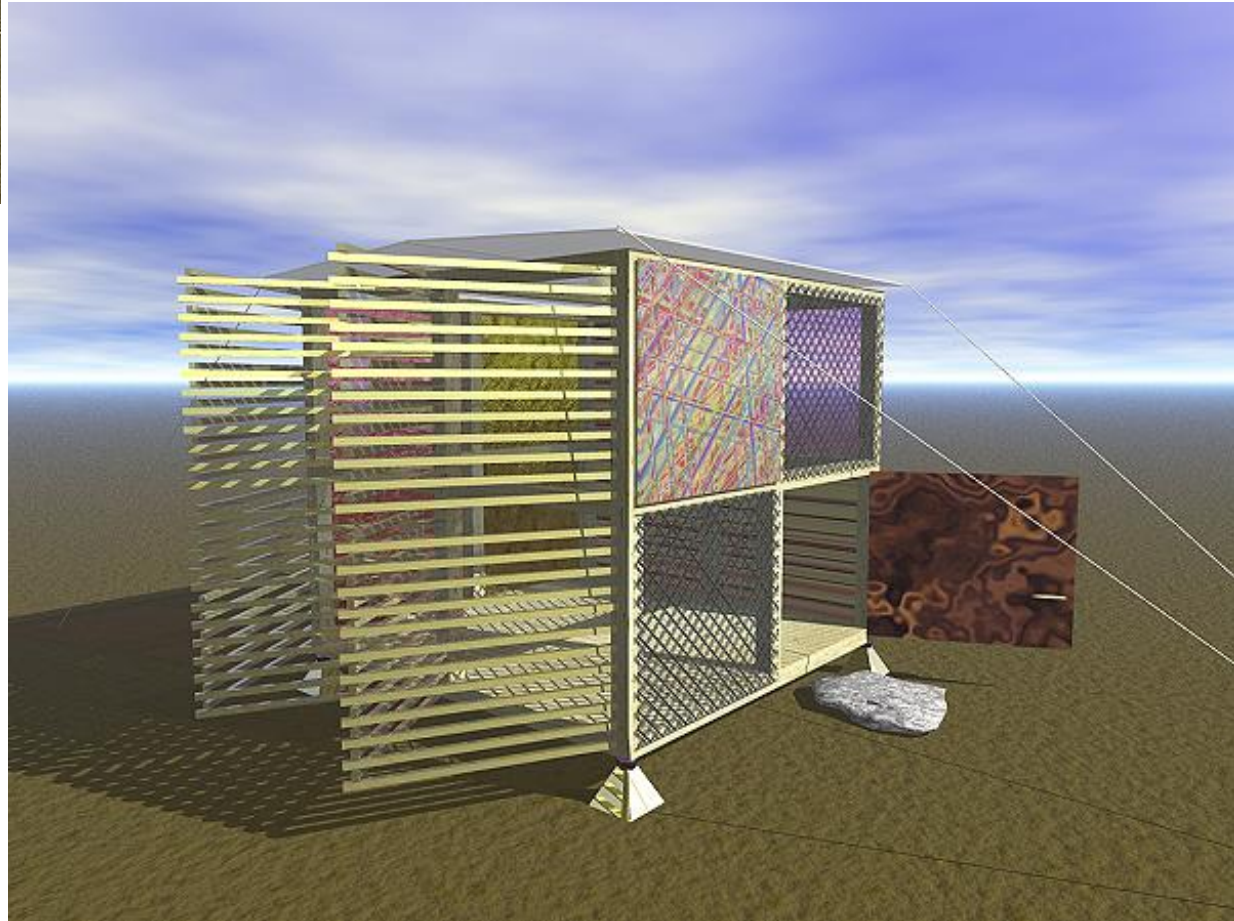
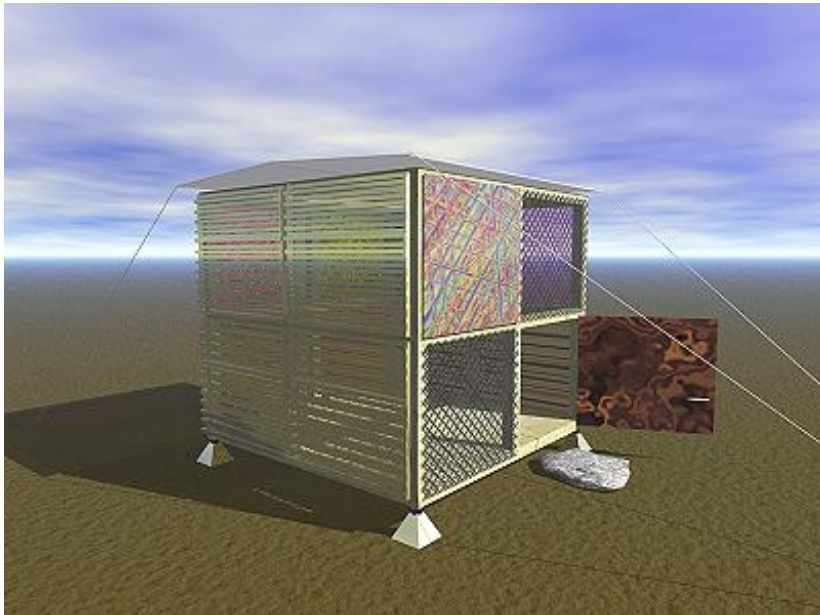
便利・面白グッズ

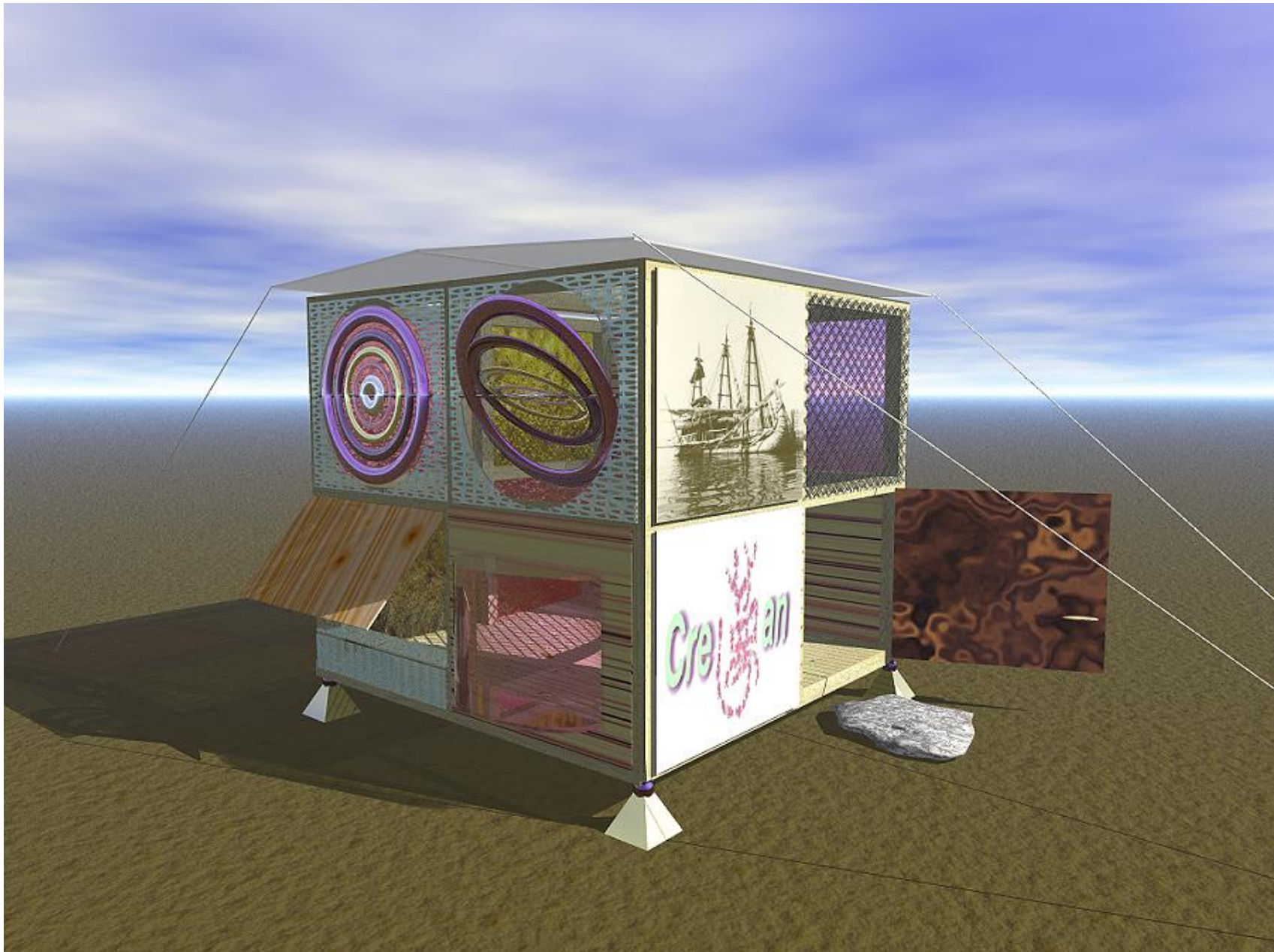
自分表現舞台

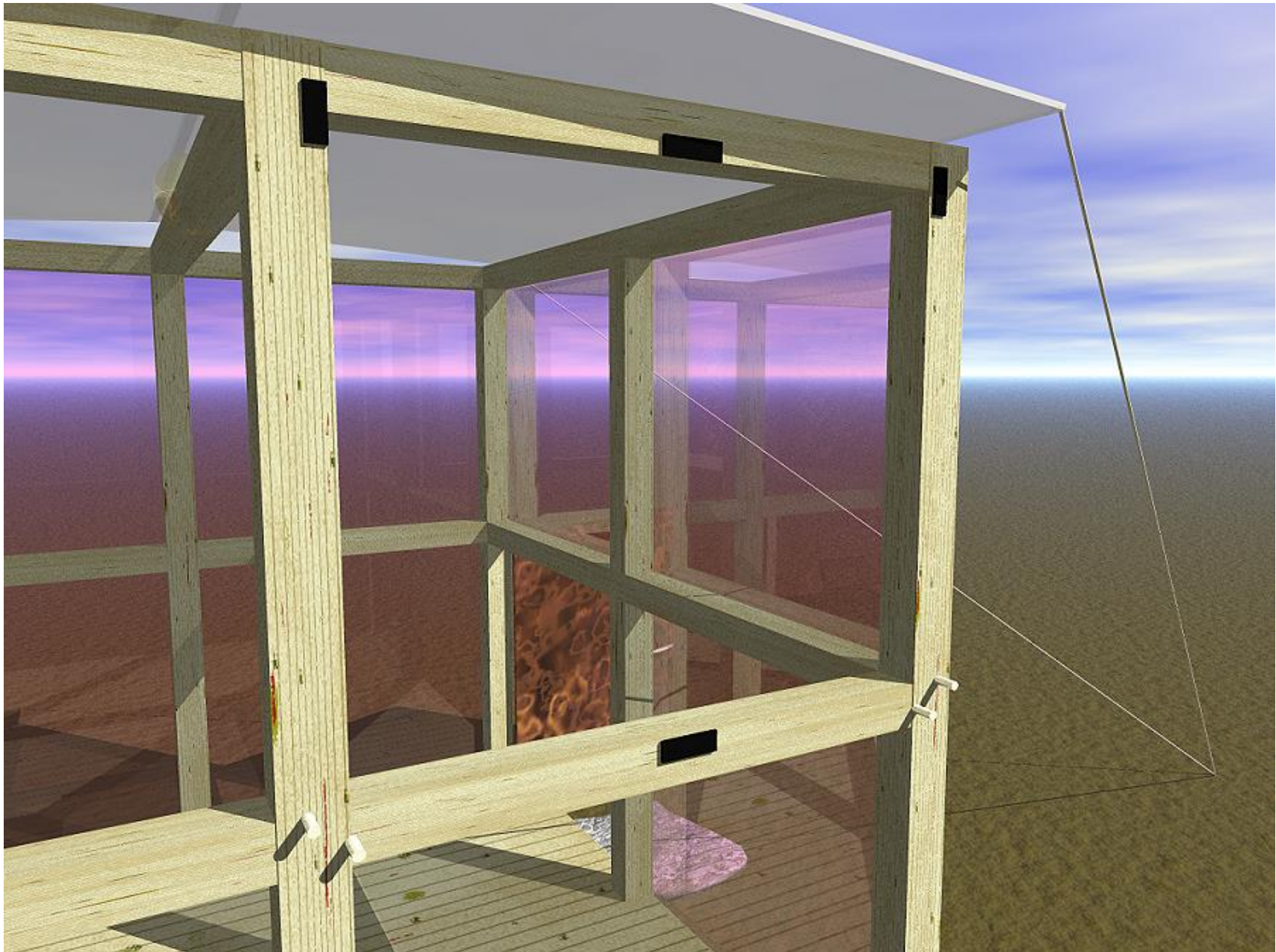


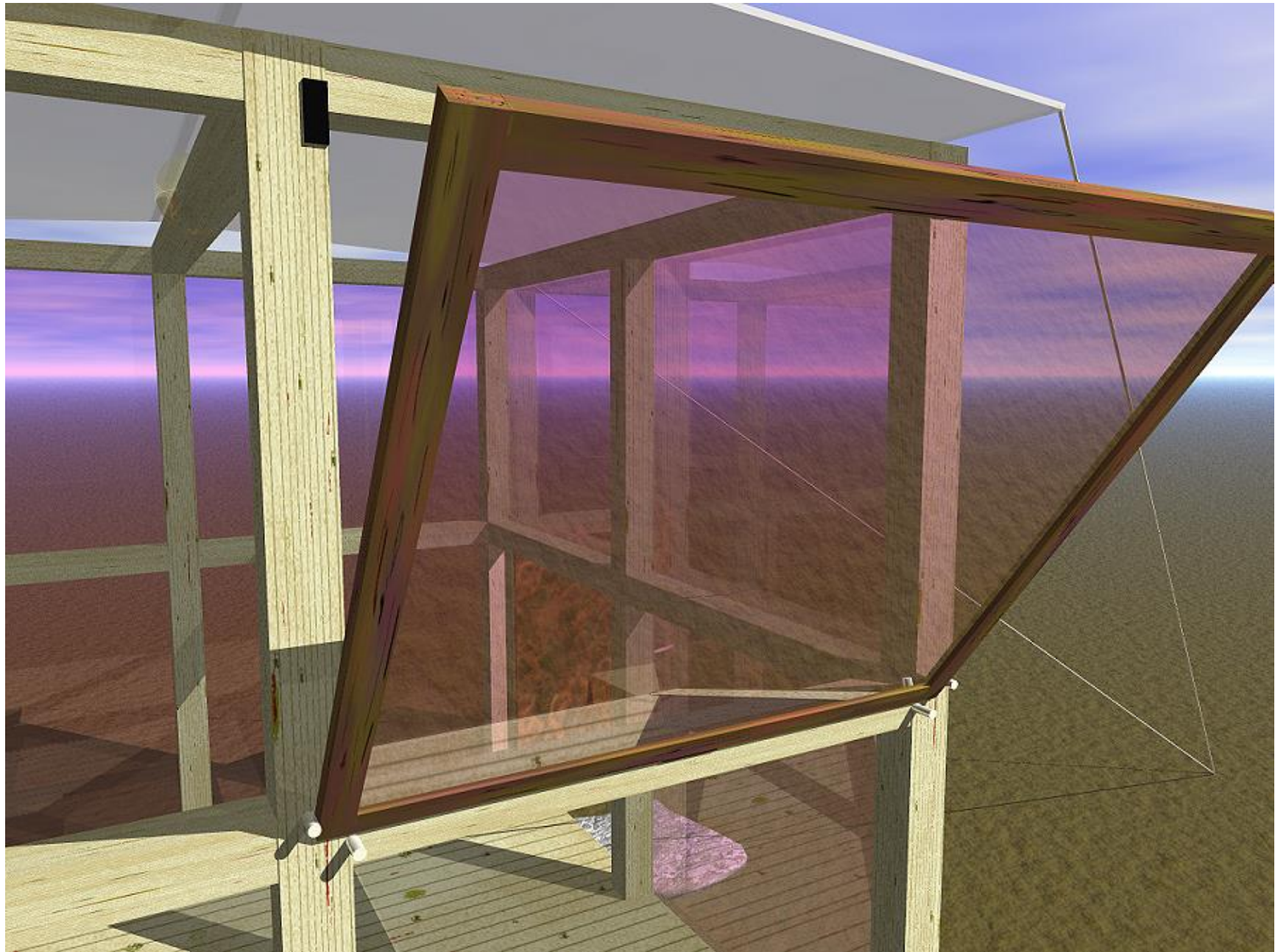


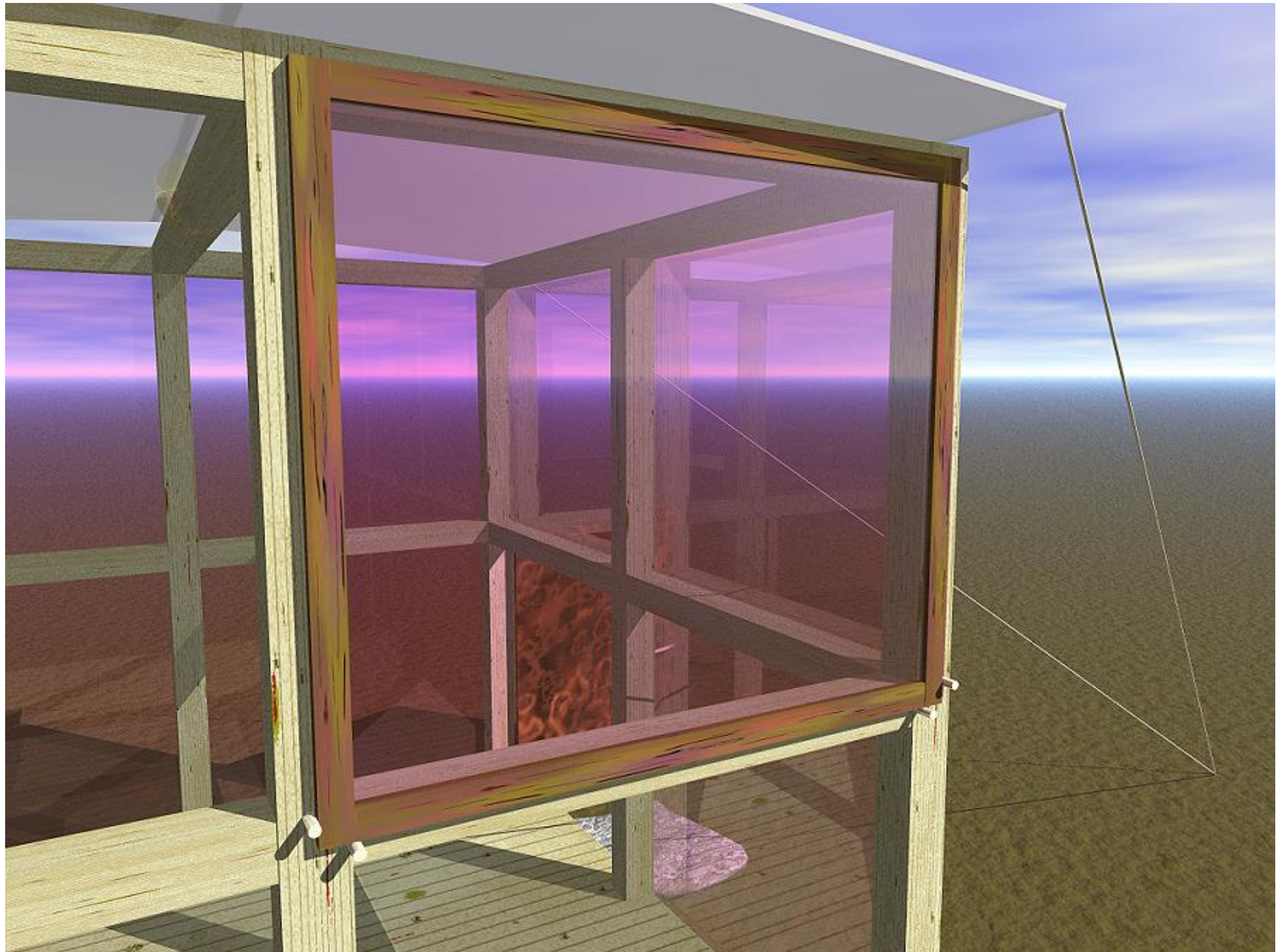






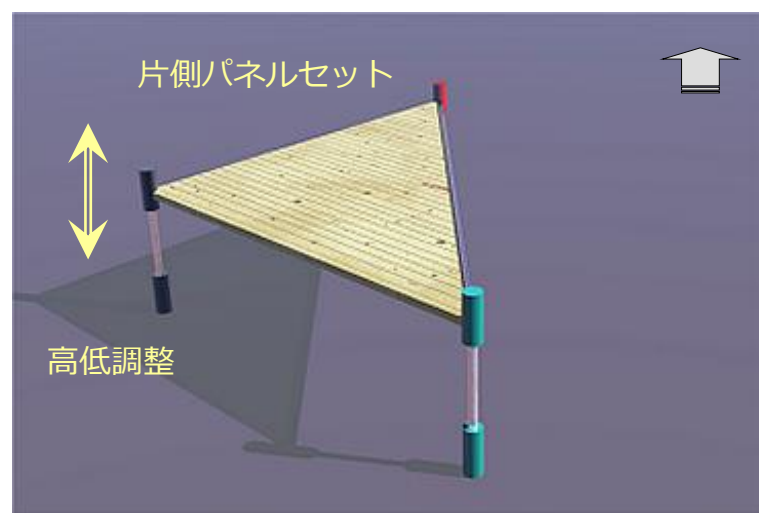
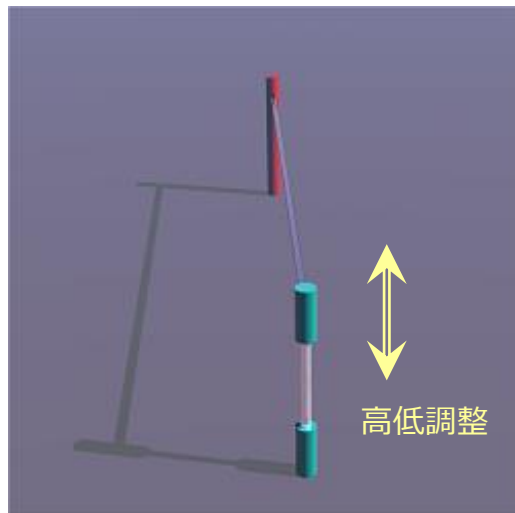
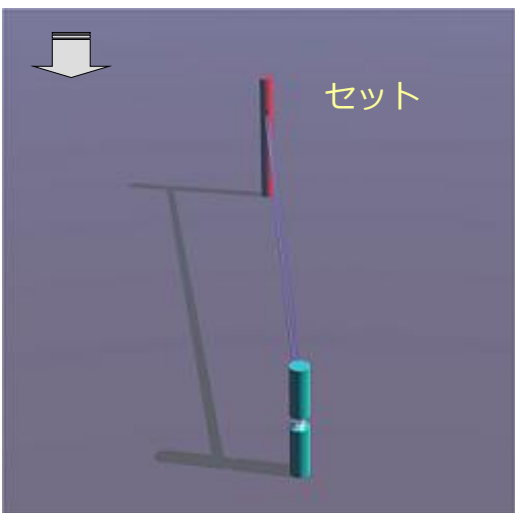
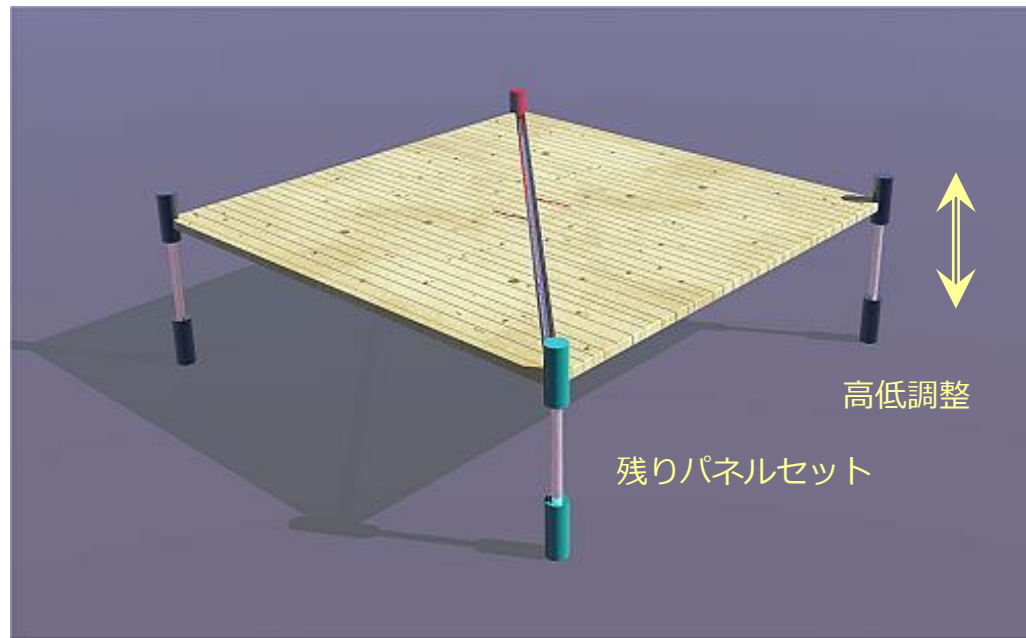
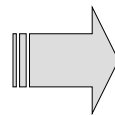
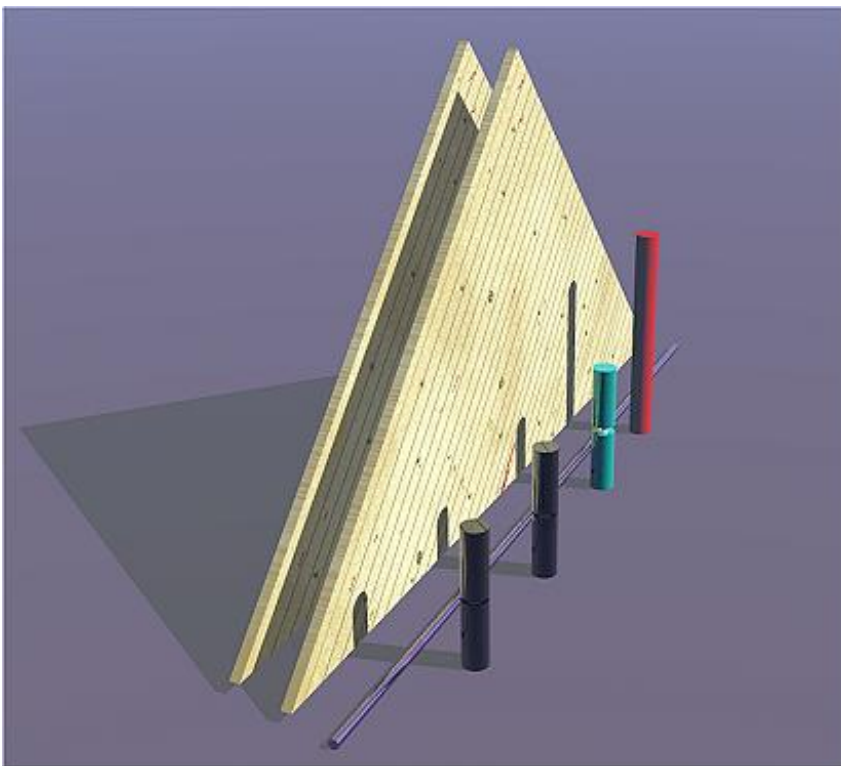








三角パネルと調整バーによる簡易水平面出しの床
 3回の照準合わせで水平が出る。格納時には極めて
 体積が減少する。傾斜地でもセッティング可能。

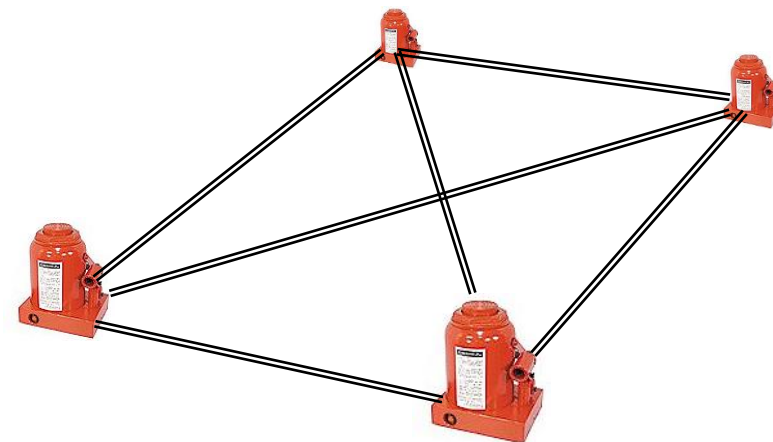




ジャッキサンプル
大阪府和泉市
(株) エイシン

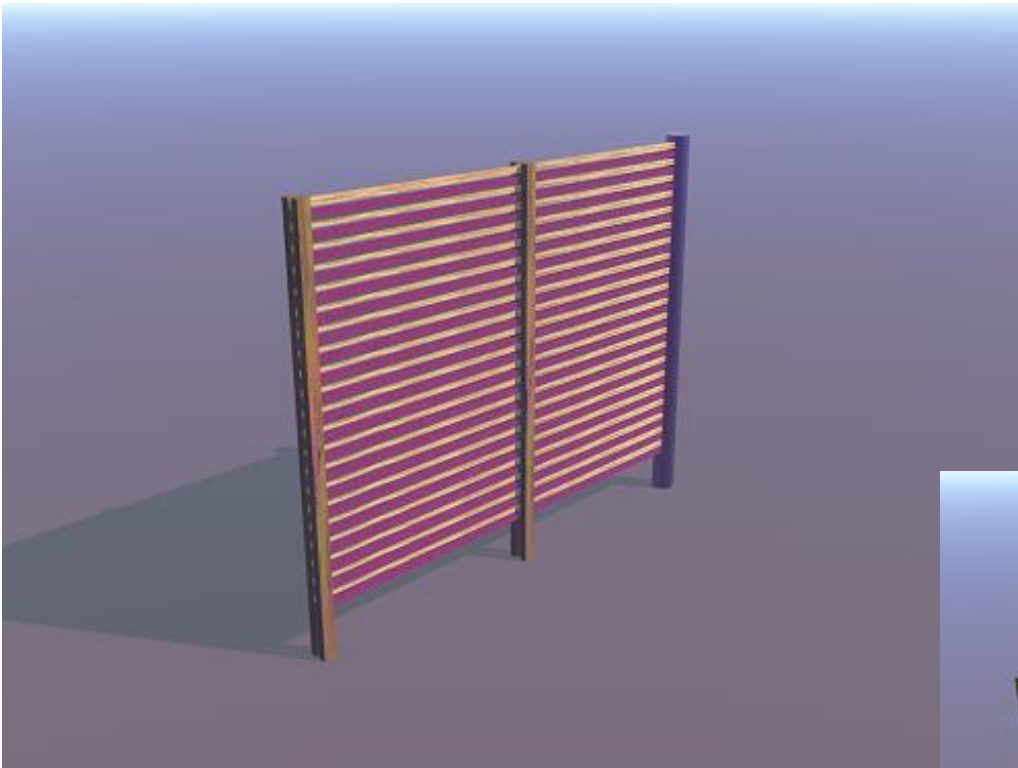
低型油圧ジャッキ
EC-20DB
持上げ能力 ; 20 t
揚程 ; 85mm
自重 ; 10 k g
価格 ; 4650円

補強案 1



補強案 2



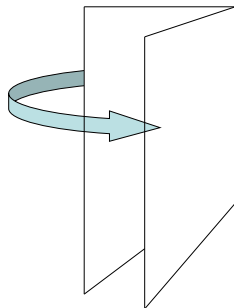
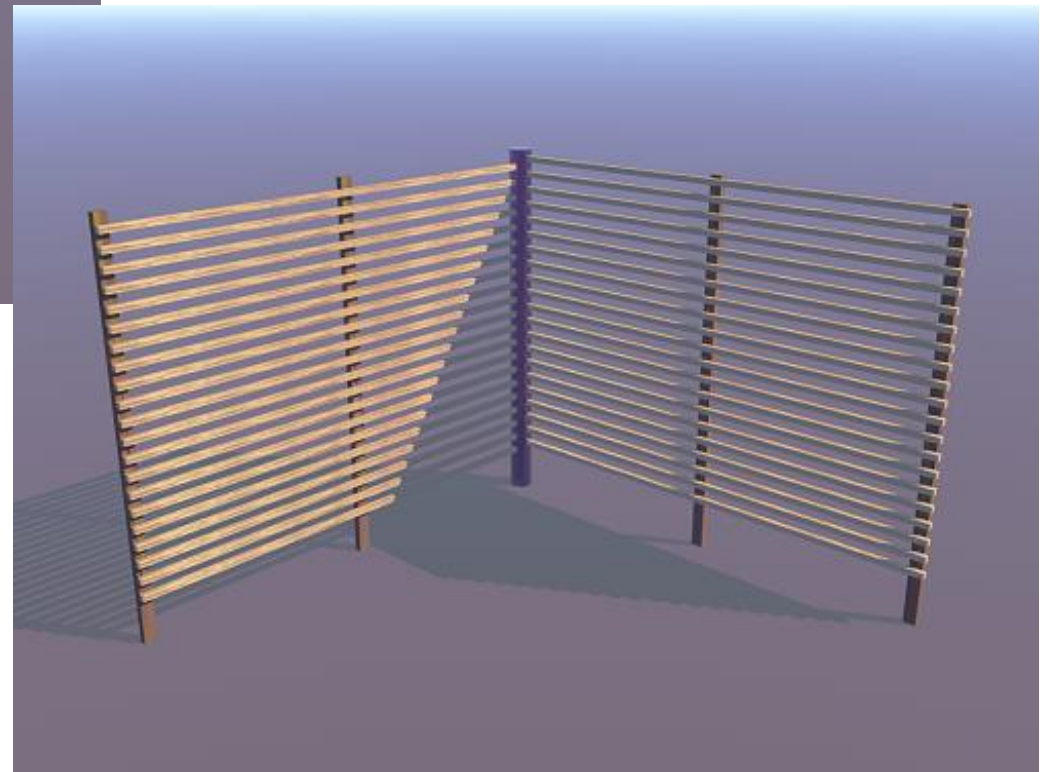


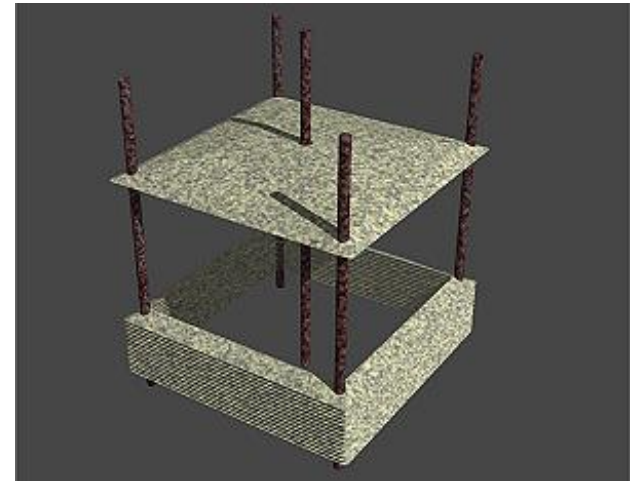
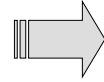
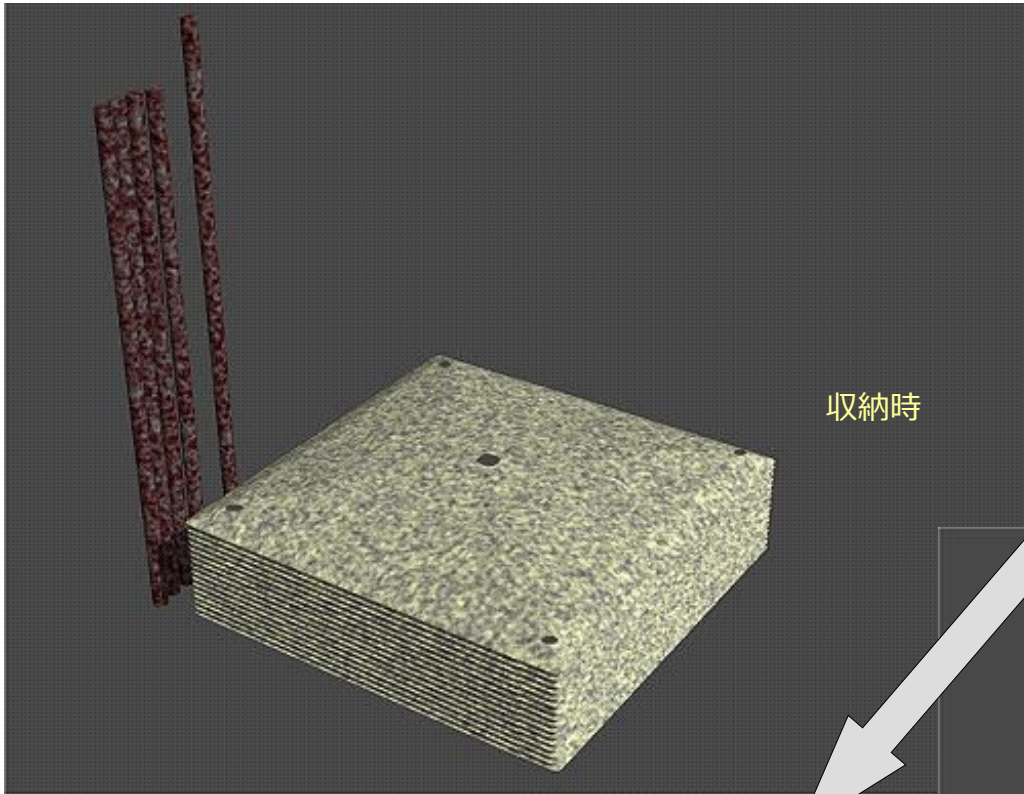
スキマを前提とした壁

ある程度のスキマは外からは見えにくく、内からは通風性が良い。

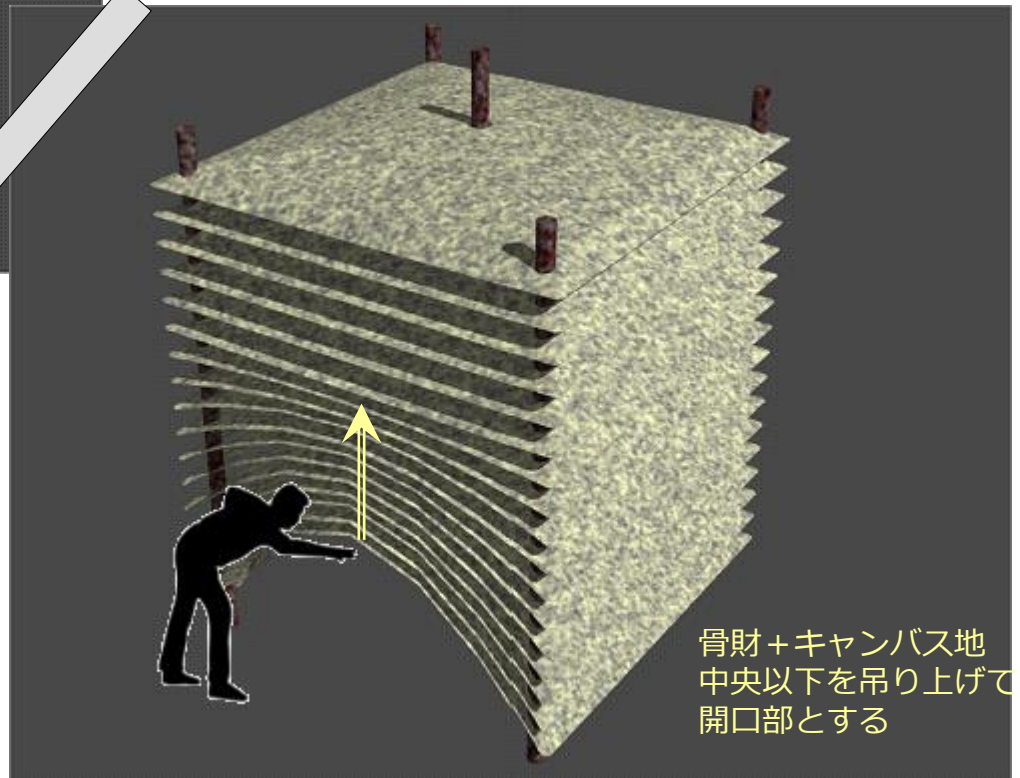
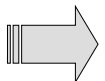
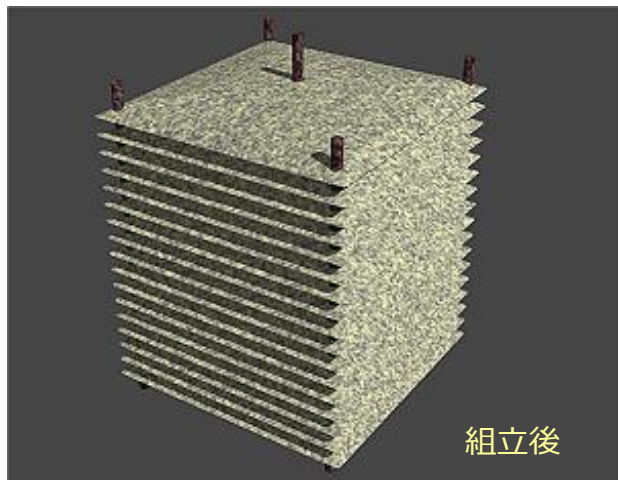
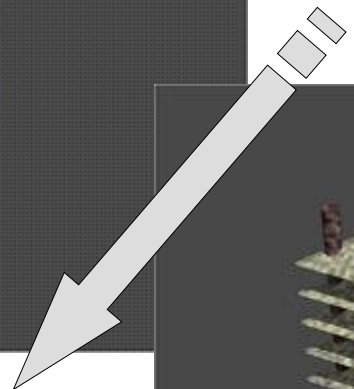
折りたたむと一体型の一枚板になる。このパッケージを利用して、壁、フェンス、ついたてなどに利用する。

トロント周辺の夏は湿度が高め（ナイアガラ瀑布の関係？）らしいので、むしろ積極的に開放系とする。自然に溶け込むという意味もある。





天幕組立て
最上部のみ笠
下部は縁のみ







HUT 2 の個別具体的アイデアと実際に具現化した作品

